

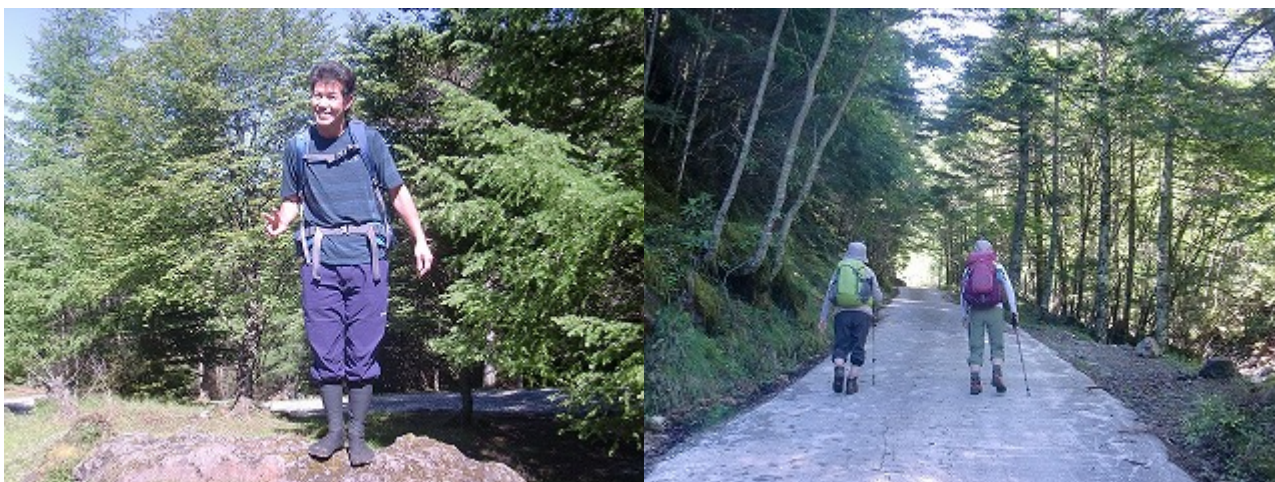
裾野麗峰山の会・山行報告書	文・写真 加藤
山行NO	個人山行
日時	2020年06月29日(月)～30日(火)
山域	八ッ・硫黄岳(2760m)～横岳(2825m)
コース	6/29 富士IC6:00-桜台発9:00-夏沢峠-硫黄岳-硫黄山荘13:00-横岳-硫黄山荘(泊) 6/30 硫黄山荘-赤岩の頭-オーレン小屋-桜台9:00-「縄文の湯」-富士IC
標高差	上り 夏沢鉱泉約2050m～横岳2825m=約775m 下り 同上
快適度	(5段階評価) 5 (ヤブはない)
参加者	加藤、星、鈴木綾=3名
<h2>梅雨の晴れ間、素晴らしい花々に痺れる</h2>	

1日目 6月29日(月・晴れ)

チャンス到来。月曜日は梅雨の合間の晴れマーク。翌日は又雨模様だが、今でなければ花に出会えない。躊躇はしていただけないと仲間に電話。即OKと前日に山行が決まった。

6:00 富士インターで星さん、鈴木綾子さん(以下敬称略)と合流。一路桜台駐車場へ向かう。諏訪南ICで降りて唐沢鉱泉の分岐から夏沢鉱泉に向かう。此処からがダートな道というよりガタガタ道で、四駆でない私の車では可哀想なくらい。硫黄山荘の受付の人が、大分道が悪いけれど車の車種は何ですか?と聞くわけだ。皆、お尻をあげて車に「ガンバレ!頑張れ!」と訳のわからない気合を入れていた。

駐車場は下、中、上とある。土日は満杯状態のようだったが平日の今日は空いていた。駐車場から駐車場までの距離は結構遠い。上は登山口に一番近い。其処まで頑張って走る。此処は狭くて10台位で既に満杯。切り返しそのままならない程だ。それでも小型が入る位のスペースを見つけて、やっととめる事ができた。登る支度をしているグループの中に地下足袋の若者がいた。声をかけたら、これが一番歩き易いんだとニコニコポーズ。



地下足袋若い衆

9:00、登山口に歩きはじめると更に車が2台上ってくる。「もう満杯ですよ。上まで行くとUターンもできないから此処から下に行った方がいいですよ」と教えてあげた。ところが、「ふん！」と単独の女性は無視してあがっていった。

あとで登山中に顔を合わせたので「置けましたか？」と聞いたところ、「道の脇に止めてきた」とブスツとした表情。

「だ〜から女は！って言われるんだ〜。看板があったろう、看板が。道の脇には車を止めないで下さいって。書いてあったでしょうが〜！」そう言いたかった。

雨上がりのしっとりした樹林帯の中を、女はやっぱり美人よりブスでも素直で愛嬌がある方がいいね。絶対に！！等とあぁだこうだと話しながら歩いていると出てきた出てきた。花の群落が。苔蒸した緑の中に真白い可憐なオサバグサ。ペロを出したようなラン（名前わからず）。3人とも花に癒されてすっかり意気揚々。嫌な事は忘れてしまった。



ヒュッテ夏沢

イワカガミ

綾ちゃんの足も今のところ快調らしい。

登りはだいぶ強くなったが、下りで膝を痛めるのが常の綾ちゃんに高山の花を見せてあげたいと、最短距離の往復ができ、尚且つ花コースがいいと今回の山を選んだ。

当たりだった。この先ずっと百花繚乱の花が続く。

夏沢鉱泉からオーレン小屋まで順調だ。其処で一休みをして夏沢峠にコースをとる。やまびこ荘からは以前、秋に本沢温泉から硫黄に登っている。急登だ。然し、今回は花が凄かった。岩に張り付く花のオンパレード。花の名前がわかるだけでも、コイワカガミ、イワウメ、イチゲ、マイズルソウ、ヘビイチゴ、カラマツソウ、タケシマラン、ゴゼンタチバナ、コケモモ、イワヒゲ、ツガザクラ、ヨツバシヨガマ、黄花シャクナゲももう咲いていた。

花に歓声をあげ、写真を撮るのが忙しく疲れも吹っ飛んだ。星さんも初めての八ヶ岳に「来て良かったあ・・・」とスマホで花の撮りまくりだった。



アオノツガザクラ

イワウメ



バックは西・東天狗岳

硫黄岳直下の瓦礫の急登に少し喘ぎながら、2,760mの硫黄岳頂上着。空気が冷たくて寒い。合羽を羽織り昼の休憩をとる。眼下に今日の宿泊地、硫黄山荘が見えた。その先に横岳、赤岳、阿弥陀が威風堂々と聳える。頂上は平日とあって数人程度。皆寒そうに休憩していた。腰を下ろして座っていると寒くて、「もう行くか？」でゴロタ岩のひと下りで硫黄山荘13:00着。



硫黄岳頂上



ミヤマシオガマ



ウルップソウ



クロユリ

先ず手の消毒。マスクをして受付をすます。此処は今の天皇陛下が宿泊した小屋として有名。先ずトイレがきれい。山の上でウオシュレットだ。(水は出なかった)。便座が温かいのは超有難い。

部屋に通された。大部屋の予約だったが、大部屋の支度がまだ出来ていないので・・・と、個室は ¥4000 増しだけど、料金は大部屋料金で良いから内緒でねと、8 畳位ある個室をあてがわれた。ここで公表するのは良くないが、こういう対応は全て嬉しい。又、来ようと言う気にもなる。(※ 読んだ人は内緒にしておいてね。)



三線を奏でる・・・

かすかに沖縄民謡が聞こえてくる。ラジオ？違うよねえと窓の外を眺めたら、屋根の上に座り山を眺めながら、小屋の従業員が沖縄の伝統楽器？（三線・さんしん）をつま弾いていた。何とも優雅な物悲しい音色に暫し聞き惚れる。

その後、明日は天気が悪いから今のうちに散策に出かけようと着る物は全て羽織って表に出る。横岳に登る縦走路には、クロユリ、オヤマノエンドウ、コマクサ、ハクサンイチゲ、お目当てのウルップソウ、チョウノスケソウが・・・。

縦走路の花群落の尾根から遠くに町が光ってみえた。何かいわんや。感激です。心ゆくまで花の稜線を堪能しました。



ハクサンイチゲ



チョウノスケソウ



横岳頂上



風が強くなり帽子が飛ばされる。横岳の方から黒いガスが下がってきはじめた。天気が崩れるのは早い。直ぐに小屋に引き返すと、あと瞬く間に山全体がガスに覆われた。13:30~15:30まで部屋で寛ぎ、夕食の時間。教室並びの皆同じ方向を向いて間隔をあけて食事をする。今日は私達を含めて7名だけだった。トマト味の鳥スープが温かくて美味しい。私は身を残してスープだけ飲む。星さんは完食。この人は食べる物は残した事がない。全て美味しいという。幸せな人だ。私は好き嫌いが多く困った者だ。綾ちゃんは食が細く食べ切れず申しわけないとやはり半分は残す。

食後、3人とも直ぐに寝てしまった。ふかふかの布団にシーツ、掛けカバー、枕カバー全て洗いたての気持ちの良い物だ。夜半トイレで眼が覚めた時に窓の外を眺めたら、下界の街の灯りが煌々ときらめいていた。この小屋に泊って良かったと思った瞬間である。

2日目 6月30日(火・小雨)

4:30には眼が覚めた。食事前に出かける段取りを終え、朝食をとる。寒さはどんなかな・・・と外に出てみると小雨がぱらつきゴーツと風の音が唸っていた。直ぐ下山することを2人に伝え、早々に出発。

出かける前に寒さと雨対策で合羽を着ると伝えると、2人とも雨具の下は持って来なかったという。星さんは要らないと思った。綾ちゃんは持ってない。

そうじゃないでしょう……。山で必ず持つ三原則は？ヘッドランプ、雨具、地図？と、山で勉強です。私も、必ず持っているだろうと聞きもしなかったのも悪かった。知らない人はわからない。それを私も知るべきだった。



硫黄岳上り返し



下山

頂上までの登り返しは、雨はパラつく程度だったが、モーレツな風に煽られ、よろけながら歩く。赤岳、阿弥陀が辛うじて見えた。

頂上からは赤岩の頭を下り、オーレン小屋への周回コースを辿る。赤岩の岩場の下りは、高所が苦手な綾ちゃんを心配したが、真剣な表情で黙々と下る姿を見て、「綾ちゃんもう高い所も大丈夫だね？」と言ったら、「そんな事ないよ。怖いけれど下るしかないからね」と、笑顔も出ない。でもやはりコンスタントに歩き続けている成果であろう。

赤岩の頭の方岐で星さんに問う。昨夜、昭文社の地図で「明日のコースはこうして下るよ、と説明したよね。「で、これからどの方向へ下る？」と標識を見て尋ねた。

困った表情で、「えーっ、こっち？でもオーレン小屋って言ったような～」としどろもどろ。決して困らせているわけではない。山へ登る以上、人頼りではなく、自らも行く山の登り、下りのコースは常に頭に入れておかないといけないという後藤会長の教えである。



イチヨウラン

赤岩の分岐は、3月後半、美濃戸から入り赤岳鉱泉から残雪の硫黄岳に登っている。その話を2人にして、オーレン小屋に下る。

下ると直ぐ樹林帯に変わり、風もなく雨にもあたらず快適だ。オーレン小屋からは前日のコースを辿り9:00には駐車場に着いた。縄文の湯でサッパリとして、帰路につくが途中から激しい雨が降り出した。

今回の山旅は全て満足に終わった。

(了)

地理院地図
GSI Maps



